

“ 知識や経験は
誰にも奪われない財産だ ”

IBで広がる未来

IB Alumni Pathways

文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局

2025/10/17 発行



駒走 聡俊

加藤学園暁秀中学校・高等学校
(MYP/DP)

進学先

都留文科大学

文学部（現教養学部） 国際教育学科

入試方式

学校推薦型選抜（IB）

この大学を選んだ理由

文系学部として日本で初めてIB教員養成コースを設けた都留文科大学で学ぶことが、IB教員になりたいという夢を実現する最も確実な道だと考えたからです。また、日本の教員免許とIBの教員認定証（IBEC）を同時に取得できる点にも大きな魅力を感じました。

ADMISSION PROCESS 受験プロセス



高2/DP1 冬

志望校決定・出願要件確認

- IB特別枠・推薦要件を確認
- 出願資格
-CEFR A2以上の英語資格
-科目条件、等を確認



高3/DP2 春～夏

出願書類の作成・ Final examの勉強

- 学校側とも相談しつつ
出願に必要な書類を揃える



高3/DP2 秋

出願準備・PG発行

- Predicted Grade（PG）確定
- 出願書類提出
（志望理由書・調査書など）



高3/DP2 冬

IB最終試験

- 11月：IB Final Exam受験
- 12月：二次選考
小論文 / プレゼンテーション・面接



高3/DP2 冬～春

最終合格決定

- IB最終スコア確定
- 基準クリアで正式合格 & 入学手続き

※上記は作成時点のものです。最新の入試要項や出願条件につきましては、必ず各大学の公式Webサイト等でご確認ください。



受験で努力したこと

都留文科大学の国際教育学科が求める学生像を徹底的に研究しました。具体的には、大学が公式に定めるアドミッション・ポリシーを繰り返し読み込み、その上で「自分は大学が求める学生像である」と納得していただけるように、志望理由書では自分の経験を大学の求める人物像に沿う形で示しました。



大学生活で最も発揮していた IBの学習者像 (Learner Profile) とは？

「信念をもつ人」：

大学時代に自ら決めたことを「責任をもって最後までやり抜いた」からこそ、長年の夢を叶えることができたと考えているからです。



現在のキャリア・今後の目標

現在、IBを導入しているインターナショナルスクールで、日本語・日本文学を教えるとともに、CASコーディネーターおよび国内大学進学アドバイザーを務めています。教科指導に加え、CAS活動のサポートや進路指導にも携わり、生徒一人ひとりが自身の価値観や将来像と向き合い、納得感のある進路選択ができるよう支援しています。今後は、生徒の自己理解や将来設計を支える取り組みをさらに充実させ、学びと進路をつなぎながら、生徒の成長を多面的に支えられる教育者を目指していきたいです。



大学で学んだこと

大学在学中は、国内のIB認定校において積極的に実習をさせてもらい、IB生に対する指導法やメンタルケアなど、IB教員を目指す上で必要不可欠な知識やスキルを学びました。また、大学2年次にはスウェーデンのウプサラ大学に交換留学し、現地のIB認定校での教育実習の一環として、生徒に日本文学を解説しました。帰国後は、実践だけでなく学術的な側面からもIBにアプローチしたいと考え、第5回日本国際バカロレア教育学会で、大学受験時から問題意識を抱いていたDP修了者に対する大学側の入学要件や授業方法に関する研究の発表を行いました。都留文科大学ではIBについて「実践面」と「学術面」の両方から学べるため、IB教員を目指す人にとっては最高の環境だと思います。



IBで学んだスキルが 大学の学びで生かされた場面

IBで学んだスキルの内、大学の学びで最も生かされたものは「能動的に学び、行動する力」です。自ら問いを立てて調べ、考えを深める姿勢をIBで培ったことが、大学での研究や授業への主体的な参加に繋がりました。さらに、この「能動性」は学業以外の場面でも大いに役立ちました。部活・サークル活動やアルバイト、インターシップ、さらには留学といった大学生活の多様な機会は、「自らが動く」という意識が無ければ何も始まりません。IBで培った「能動的に学び、行動する力」があったからこそ、幅広い活動に挑戦でき、学問だけでなく人間関係や社会経験においても成長することができました。